

news paper

#5

RACE ARCHIVE
Rd.5 Sportsland SUGO

TODAY'S RACE Rd.6
FUJI SPEEDWAY
7.15 SAT/16 SUN

www.inging.co.jp



INTERVIEW

Sena SAKAGUCHI #39

39号車 ドライバー 阪口 晴南

上を目指して

AIM 4 HIGHER



SUPER FORMULA 2023
P.MU/CERUMO INGING RACE REPORT

©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

RACE ARCHIVE Rd.5 レースアーカイブ Round.5 予選、阪口晴南は思わぬ不運に見舞われてしまったものの、坪井翔は予選4番手と、

1周目からセーフティカーラン 5月21日(日) これまで決して相性が良いわけではなかったスポーツランド SUGO で速さをみせることができた P.MU/CERUMO・INGING。ただ、これまでのシーズンでは上位にはついてはいるものの、なかなか優勝に手が届いていない。坪井にとっても阪口にとっても、決勝レースでのペース改善が勝利への大きな課題とも言えた。坪井はさらなる上位進出を、阪口は今後に繋がるレースを目指すべく、P.MU/CERUMO・INGING は6月18日(日)の決勝日に臨んだ。

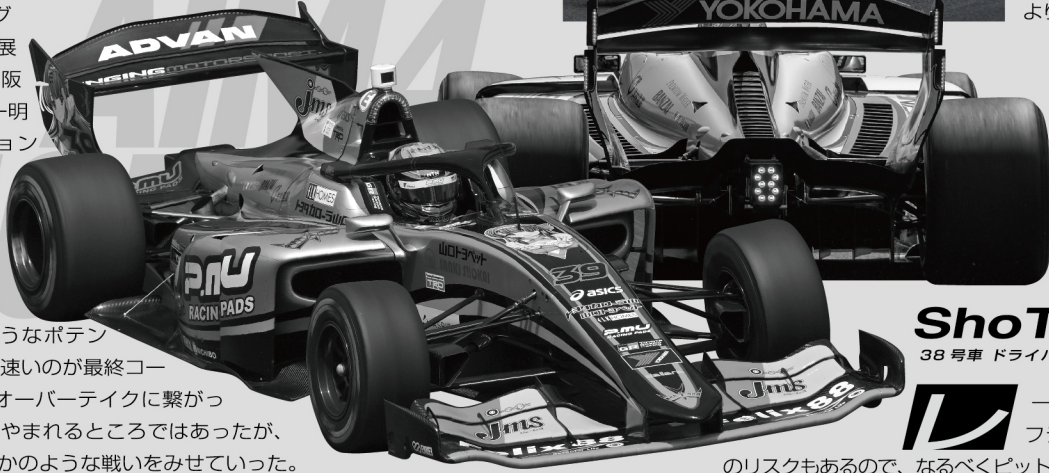
気温 28 度 / 路面温度 36 度と、真夏のような暑さのなかで迎えた午後 2 時 30 分からの決勝レース。ただ午前比べて雲が多く、日射しはそこまで強いものではなかった。1 周のフォーメーションラップを経て迎えたスタートでは、坪井が好スタートを決め 3 番手につける。また阪口も最後尾から好スタートを決めるとふたつポジションを上げ 20 番手に浮上した。ただ、直後オープニングラップの S 字で 16 番手スタートの #36 ジュリアーノ・アレジと 17 番手スタートの #19 関口雄飛がアクシデントによりストップしたことから、1 周目からセーフティカーランとなった。

坪井、苦戦のトップ争いも リスタート後、坪井はトップの #53 大湯都史樹、2 番手のペースが上がらない。10 周目を過ぎるとピットインを行う田が #53 大湯をオーバーテイク。坪井もこれに続き 15 周目に浮上した。ただ一方で、今度は今季争うことが多い #15 向山をかわす。17 周を終え #37 宮田がピットインしたことから坪井はトップに浮上することになったが、レース後半に向けてマージンを稼ぎたいところだったものの、後方からピタリと #15 ローソンが続く展開に。しかも、午前中に良いフィーリングだった坪井のラップタイムが上がらず、フリー走行こそ 1 分 08 秒台が相次いで出せていたにもかかわらず、決勝では 1 分 09 秒台から 1 分 10 秒台のタイムで推移することになってしまった。



阪口は、アグレッシブなレース展開を魅せつける

一方、後方からアグレッシブなレース展開をみせていたのは阪口だ。セーフティカー明けの 5 周目にふたつポジションを上げ 18 番手につけると、17 周目には #4 小高一斗をかわし、16 周目には #51 ラウル・ハイマンをパス。抜きづらい SUGO で下位グループとは別格のようなポテンシャルをみせつける。特に速いのが最終コーナーで、そのスピードがオーバーテイクに繋がっていた。予選での不運が悔やまれるところではあったが、そんな不運を帳消しにするかのような戦いをみせていった。



後半戦に賭けたピットイン

P.MU/CERUMO・INGING の 2 台のうち、先にピットストップを行ったのは阪口。51 周のレースのうち後半戦となる 32 周にピットインを行い、13 番手でコースに復帰すると、35 周目には #6 太田格之進をパス。12 番手につけていく。前を走るのは 11 番手の #65 佐藤蓮、さらに 40 周目にピットインした #20 平川亮という顔ぶれだ。あとふたつポジションを上げればポイント圏内に届いていく。一方、#15 ローソンを従えながらトップを走り続けていた坪井は、クリーンな状況で走行が続けられていたものの、終盤に燃料が減り軽くなってもなかなかペースを上げられずいた。先にピットインを行っていたライバルたちの方がペースが優り、このままピットインを遅らせても彼らの後方に入ってしまう。セーフティカーが出る可能性にかけられる戦略もあったが、この日の展開ではなかなか出そうにもなかった。



ドラマチックなフィニッシュでポイントGet

坪井は 38 周目にピットインを行うと、フレッシュなタイヤで後半の巻き返しを狙うことにした。9 番手でコースに戻った坪井は、#20 平川のピットインにともない 8 番手へ。さらにブッシュを続け、フィニッシュの 2 周前には #18 国本雄資をかわし 7 位でフィニッシュした。劇的な追い上げはなかったが、苦しい状況ながらもポイントを得てレースを終えることになった。そしてドラマチックなフィニッシュを遂げたのは阪口。43 周目に #65 佐藤をかわすと、最終周の最終コーナー立ち上がりで #20 平川をオーバーテイク。わずか 0.041 秒差で 10 位に食い込み、ポイント獲得を果たしてみせた。



INTERVIEW ポ

上を Sena #39 SAKAGUCHI 目指して

ポイント獲得まで順位を上げることができて良かったです。最後は平川選手を抜くこともできましたね。今季はこれまでポテンシャルが上がっていて、予選では不運もあり、今回は後方からのスタートとなりましたが、ペースが上がらないライバルに対して競っていたときはまだしも、単独走行になったときには上位のライバルたちにも劣っていない良いタイムを記録することができました。これまでの決勝レースとの挙動ともまた違いましたので、今後に向けてすごく良い手ごたえがありました。次戦は富士ですが、予選から良い位置につけたいですし、上を目指してさらに課題を見つけたいです。テストもあるので、誰よりも有意義な 2 日間をしたいですね



ロングランへの課題

Sho TSUBOI #38

38 号車 ドライバー 坪井 翔

レースはセーフティカーのリスクもあるので、なるべくピットストップを遅らせようと思いましたが、中盤以降なかなかペースを上げられませんでした。結果論から言えばペースが悪かったので早めにピットに入るべきだったかもしれませんが、いずれにしろペースの遅さが敗因です。早めにピットインしていたライバルも多かったため、終盤、フレッシュなタイヤを使って抜けるチャンスもあったのですが、それも活かすことができませんでした。ロングランへの課題はずっとありますが、今回は特にひどかったですね。今後得意なコースが続くので大丈夫ではないかとは思っていますが、この課題の解決に向けて、来週のテストでしっかりと取り組んでいかなければいけません



Yuji TACHIKAWA

チーム監督 立川 祐路

井選手については決勝ペースがかなり悪かったので、苦しい展開になってしまいました。原因はまだ分かりませんが、レース直前のウォームアップまで悪くなかったため、予想外でしたね。今後しっかりと原因を探らなければいけません。一方阪口選手は、昨日の不運な予選から最後尾スタートとなりましたが、ポイント獲得まで追いつけてくれたので、僕たちの予想を上回るレースだったと思います。クルマもレースを重ねるごとに戦える状態になっていると思いますし、予選で前につけることができたらさらに上位で戦えると思います。戦える状態になっていると思うので、次戦は 2 台揃って上位で争えるよう、しっかり準備していきたいです



www.inging.co.jp

TO BE CONTINUED...

アプリをDL後、ドライバーを登録して応援しよう!

38 Sho Tsuboi 坪井 翔

39 Sena Sakaguchi 阪口 晴南

スマホで登録

PCで登録

登録

https://sfg.jp/

Results

38 予選 4 位 決勝 7 位

39 予選 不通過 決勝 10 位